

滋賀県への2026年度政策・制度要求と提言

連合滋賀では、8月4日(月)、「働く者・生活者がより働きやすい社会、くらしやすい社会、誰一人取り残されることのない社会の実現」をめざして、滋賀県の2026年度の予算反映を求めていくことを主眼に置き、「2026年度政策・制度要求と提言」の要求書を滋賀県に提出しました。

今年度は、9月28日から「国民スポーツ大会」、10月25日から「全国障害者スポーツ大会」が滋賀県で開催される年でもあることから、滋賀県の業務負担を考慮する観点から回答項目を絞って協議を進めることとしました。

部局協議の状況



部局協議については、例年、10月中旬に3日間ほどの日程を確保して実施している協議を行っていましたが、国民スポ・障ス

ポが開催される期間でもあることから、協議部局を圧縮して10月20日(月)の1日に絞り、6部局との集中した協議を実施しました。



土木交通部	●災害等への対応●交通基盤整備の促進と公共・地域交通の充実●バス業界における従事者の確保●交通事業者への通学・障がい者割引制度の財政負担の是正
健康医療福祉部	●医療・介護・高齢者福祉サービスの充実
総務部	●良質な公共サービスの提供●若者の政治参加を育む環境づくりと投票率向上に向けた取り組み●持続可能な財政基盤の確立
教育委員会	●魅力ある学校のあり方と教育の充実●インクルーシブ教育の推進●教職員の採用と働き方改革
子ども・若者部	●子ども・子育てサービスの提供●子どもの貧困対策
商工観光労働部	●DX・GXの進展に伴う産業構造への対応支援と県内企業の発展促進●中小企業活性化への支援強化●ディーセントワークを中心に促えた雇用拡大・安定・確保●女性の活躍促進●消費者行政の推進

総括協議の状況



総括協議については、11月5日(水)に滋賀県危機管理センター会議室で実施しました。三日月知事や滋賀県幹部職員の方

の理解の下、協議時間を30分拡大しての開催となりました。このことにより、協議テーマについて、これまで以上に深掘りされた議論が展開できました。



商工観光労働部	●中小企業への支援強化・賃上げ(価格転嫁の状況確認)、下請法改定への対応●ものづくりの魅力向上、オープンファクトリーの今後の展開と予算拡充
土木交通部	●バス業界における従事者の確保
子ども若者部	●「淡海子ども・若者プラン」にある包括的性教育やプレコンセプションケアの推進のために、とりくみの周知と予算化
教育委員会	●学校における働き方改革、給特法改正を受けての教育活動に専念できる環境整備
健康医療福祉部	●医療・福祉分野の人材確保と外国人材の共生に向けた取り組み
総務部	●公契約の適正化と価格転嫁の推進、公正な取引環境の確保に向けた県の取組方針
知事公室	●防災対策の推進に関する条例を受けて、災害時の公共インフラへの確保の視点での市町を含めた全体的な連携状況、自治体単位の災害対応の状況について
総合企画部	●大阪・関西万博の総括・評価・感想について●滋賀全体で休み方、暮らし方を見直す取り組みについて
農政水産部	●今年の米騒動への対策・評価について
琵琶湖環境部	●埼玉県での下水道事故を受けて、滋賀県内の下水道管渠への対策状況について
文化スポーツ部	●国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会についての総括・評価・感想について

2026年度政策・制度要求と提言の取り組みを振り返って

滋賀県との「2026年度政策・制度要求と提言」の取り組みについては、これまで、知事を筆頭に、滋賀県の関係部局の誠実な対応のもとで、建設的な協議が、この間続けることができおり、非常に有益な取り組みとなっています。協議で共有した課題や内容についてのフィードバックの強化が必要です。また、時には双方が連携して運動をつくりながら、地域社会の理解を深める取り組みの強化が求められます。今後は、連合滋賀地域協議会と滋賀県下の市町自治体との政策・制度要求と提言の取り組みとの運動性を高めていくことも求められます。



連合滋賀

日本労働組合総連合会滋賀県連合会

2025年12月5日

連合滋賀 第323号

大津市松本2丁目10-6

電話077-523-0500

発行・白木 宏司

編集・相澤三千代

(定価 1部6円)

印刷 エメディア株式会社

連合滋賀第22回定期大会

つなぐ力、育む力、多様性の力 ～すべての働く人のそばに、深化する連合滋賀～



連合滋賀は11月7日(金)にびわ湖大津プリンスホテルにおいて、連合滋賀第22回定期大会を構成組織代表の代議員および特別代議員、連合滋賀役員、傍聴者等、約200名の参加のもと開催しました。

議長に宮村知華氏(UAゼンセン)、山本聖奈氏(私鉄協)の両氏を選出し全7本の議案を執行部から提起し、各議案とも可決・承認されました。

連合滋賀会長 白木宏司 挨拶(抜粋)

スローガンについて

今期から、連合滋賀独自のスローガンを掲げました。「つなぐ力」とは、職場・産別・地域・世代を越えた連帯の力、「育む力」とは、人を育て、信頼を育み、未来を育てる力、「多様性の力」とは、違いを認め合い、互いを尊重し、新たな価値を創造する力です。

「深化」には、地域に根ざし、人と人、職場と社会をより深く結びつけ、信頼と共感の輪を広げていくことを何よりも大切にしたいという強い思いを込めました。

深めることで求心力を高め、多くの働く仲間を包み込み、社会全体へと広がる「遠心力」となる、このような運動のあり方を、このスローガンに託しました。

組織拡大と社会対話

スローガンで示したように、深化する連合滋賀運動を進める上での最重要課題は「組織拡大」(これは連合本部とも共通の課題)です。

連合滋賀傘下の組合員は、1996年のピーク時8万6千人を境に、2025年時点では7万人を下回りました。この間、グローバル化の進展による産業構造の変化や、非正規雇用の増加など、さまざまな要因が影響しています。

しかし、安心・安全な社会の実現のためには、働く者の声を結集し、政治や企業に働きかけていく必要があります。そのためには、滋賀県全域で働く未組織労働者53万人を包摂するための組織拡大こそ、最重要課題です。

また、連合の認知度向上も大きな課題です。

連合が何を考え、何を実行しようとしているのかを伝える努力を重ねていかなければなりません。まさに社会対話を通じて“深化する連合運動”を築いていきたいと考えています。

2026年春闘に向けて

10月23日、連合本部は「2026春季生活闘争基本構想」を確認しました。

「ノーモア・デフレマインド」を掲げ、賃上げ率の目標を全体で5%以上、中小企業で6%、有期・短時間労働者で7%とし、その実現を目指すとしています。

未組織労働者・中小企業が多い本県では、賃上げ原資確保のための「価格転嫁」と「生産性向上」が鍵となります。行政などによる、生産性向上・職場環境整備等支援事業などの活用の周知、そして、生産性向上については、「生産性の3原則」(雇用の維持・拡大、労使の協力と協議、成果の公正な配分)に基づき、現場発想による取り組みも求められます。

働く側も経営側も互いに知恵を出し合い、仕事を楽しく、付加価値の高いものへと変えていく努力が必要です。

働く人の心に火を灯す、そのような労使の取り組みこそが、滋賀の未来を拓く力になると確信しています。その環境作りも公労使で連携し議論出来ればと考えています。

結びに

2026～2027年の運動は、DX化を含む組織基盤の強化、信頼される組織運営の確立、運動のスクラップ＆ビルド、ジェンダー平等・多様性推進の充実など多岐にわたります。これまで以上に、構成組織の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

これまでの取り組みにご尽力いただいたすべての皆さまに改めて心より感謝を申し上げますとともに、本日から始まる新たな運動を、皆さまと心をつなげて精一杯取り組んでいくことをお誓い申し上げます。

連合滋賀2026～2027年度執行役員

役職	氏名	区分	構成組織
会長	白木 宏司	再	電機連合
副会長（専従）	佐賀 春樹	再	自治労
副会長	中村 正吾	再	電機連合
	師玉憲治郎	新	U A ゼンセン
	榎並 典朗	再	J A M
	松井 大介	再	自動車総連
	工藤 博司	再	自治労
	辻 仁	再	J P 労組
	清原 勝	再	日教組
	速水 聡	再	電力総連
事務局長	白崎 直樹	再	私鉄県協
	相澤三千代	再	J A M
副事務局長	坂田 広志	新	電機連合
	伴 幸士	再	J P 労組
	兵頭かほり	再	日教組
	村上 大介	新	私鉄県協
	—	—	※継続審議中
	吉村 蔵志	再	自動車総連
	平塚 雄二	再	電機連合
執行委員	山中 幸次	再	電機連合
	大江 彰宏	再	電機連合
	山川 貴之	再	U A ゼンセン
	沼尾 崇	再	U A ゼンセン
	川村 幸久	再	自治労
	庄野 英夫	再	J A M
	玉木 博文	新	自動車総連
	澤田耕太郎	再	J P 労組
	西條 陽之	再	日教組
	杉江 勉	再	電力総連
	坂田 祥一	新	基幹労連
	桑 隆太郎	再	私鉄県協
	岡本 金樹	再	J R 連合
	森田健太郎	新	情報労連
	石井 猛	再	運輸労連
	夏原 奏	再	全印刷
会計監査	増田 一	再	サービス連合
	松本 有子	再	女性委員会（電機連合）
	長谷川真梨	再	女性委員会（U A ゼンセン）
	澤 美希	再	女性委員会（自治労）
	村田 里世	再	女性委員会（UAM）
	加藤 春美	再	日教組
	浦谷 侑輝	再	J E C 連合
	—	—	※継続審議中

新任挨拶

副事務局長（電機連合）

さかた ひろし

坂田 広志



この度、連合滋賀第22回定期大会におきまして副事務局長を仰せつかりました、電機連合出身の坂田広志と申します。

本大会にて連合滋賀が掲げたスローガン、「つなぐ力、育む力、多様性の力、～すべての働く人のそばに」、深化する連合滋賀～は、私たちが実践すべき行動規範と考えております。

私は、このスローガンを胸に、現場のニーズを的確に捉える「つなぐ力」を強化し、未来を担うリーダーを育成する「育む力」に注力していきたいと思います。また、性別、雇用形態、国籍を超えた「多様性の力」を結集し、「すべての働く人のそばに」寄り添い、連合滋賀の運動が着実に「深化」するよう、各種運動・活動を展開してまいりたいと考えております。

皆様のご指導ならびに力強いご支援・ご協力を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

副事務局長（私鉄県協）

むらかみ だいすけ

村上 大介



これまで取り組んできた、産別・単組での経験を活かし、これらの枠を超えた連合の活動を学びながら、皆さまのお役に立てるよう運営に努めていきます。

第1区地域協議会においては、大会で決定された方針に基づいて、皆さまと力を合わせて活動を進めていく所存です。特に、今滋賀大会のスローガンである「つなぐ力、育む力、多様性の力」は労働運動においてどれも重要なことです。現場の声を“つなぐ”ことで政策形成に活かし、政策提言力の強化も含めた組織拡大の必要性、次代を担う人材の確保・“育成”の必要性、ジェンダー平等・“多様性”・社会課題へ対応する必要性を念頭に取り組んで参ります。わたくし自身、まだまだ未熟者ではありますが、これからも皆さまのご指導ご鞭撻を賜りながら活動を進めて参ります。何卒、よろしくお願いたします。

退任挨拶

前副事務局長（日教組）

かわばた たかゆき

川端 隆幸



この度、連合滋賀第22回定期大会を最後に、連合滋賀の役員を離れることになりました。連合滋賀で

のいろいろな活動を通して、本当にたくさんのことを学ばせていただきました。仕事上は、苦勞することもありました。が、各産別・単組のみなさんに支えていただいたおかげで、何とか務めることができました。何よりも助けていただいた、2区地協のみなさんに一番感謝しております。

この4年間の貴重な経験は、今後の自分にとって、大きな財産となりました。また、この仕事ならではの特権だと思いますが、さまざまな立場の方とお会いして交流を深め、知見を広げることができ、楽しい思い出をつくることもできました。

今後は、一組合員に戻って、微力ながら、連合滋賀の活動に協力していきたいと思っています。

これまでのご指導・ご協力に、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

連合滋賀
推薦決定候補者
各種選挙結果

米原市議会議員選挙



川部 亮（新人・立憲）
941票（当選）

野洲市議会議員選挙



山本 剛（現職・立憲）
931票（当選）

甲賀市議会議員選挙



福井 進（現職・立憲）
1,926票（当選）



若狹 健太（新人・国民）
2,048票（当選）

湖南市議会議員選挙



奥村 幹郎（現職・立憲）
791票（当選）



堀田 繁樹（現職・立憲）
768票（当選）

東近江市議会議員選挙



中村 和広（現職・立憲）
1,475票（当選）



西川 清里（新人・立憲）
1,088票（当選）

連合活動アルバム



女性組合員交流会
10月26日 あまが池プラザ

いつまでも動き続けられる体をひもトレ！
骨盤底から体幹ケア！



青年委員会第24回スポーツ交流会（運動会）
11月15日 彦根パナソニック体育館

様々な競技種目で異業種の若手交流！



中小労組連絡会議第32回総会・意見交換会
11月15日 ライズヴィル都賀山

活動方針を決定！園新議長（自治労）を決定し、新たなスタートをきる！

男女平等標語・川柳入選作品

応募総数
177件

最優秀作品

「アップデートが必要です」 自分の中の“あたりまえ”

全労金 近畿労働金庫労働組合 宮本由貴さん

優秀作品

認め合おう 十人十色な 価値観を 相互理解で 共生へ

全労金 近畿労働金庫労働組合 田中諒太さん

「女性初」いつまでつづくの 令和だよ

JP労組 日本郵政グループ労働組合滋賀県連絡協議会 西村優紀子さん